



# 教員過労死ライン 10%以上 教員不足打開へ予算・教員増を

## 酒井県議が決算総括質疑



群馬県議会決算特別委員会の総括質疑が24日行われ、日本共産党の酒井宏明県議が教員不足問題についてただしました。昨年度当初で5人、年度末では50人の教員が不足。今年9月時点ですでに20人足りません。

酒井氏は、由々しき事態だとして、その背景にある教員の時間外勤務の実態を追及。県の調査でも、過労死ラインといわれる月80時間を超える長時間勤務を行って

いる教員が10%を超えていることについて、教育長は「改善していかななくてはならない」と答弁しました。

酒井氏は、少人数学級の予算を山本知事就任以来、毎年1億円ずつ削減してきたことを批判。いじめや不登校の急増など、学校現場のSOSにこたえるためにも教員の抜本的な増員が必要だと強調しました。

## マイナンバーカード押しつけに2億8千万円 強制するなど批判

マイナンバーカードについて県は、ショッピングセンターにブースを設けたり、1万円分の金券を贈呈したりするなど取得促進に2億8300万円も投入したことを明らかにしました。酒井氏は、カード取得はあくまでも任意であるにもかかわらず、取得の有無で行政サービスに格差が生じている（例：GunMaaSの前橋市民割引が受けられない）のは問題だと追及。県が「デジタル化の推進に必要。今後丁寧に説明していく」と答弁したのに対して、「情報流出が怖い」「メリットを感じない」（行政庁調査で未取得の理由で多かったもの）人にまで事実上強制するようなやり方を厳しく批判しました。

